

令和4年度 第2回 地域フォーラム

～「林業」から広がる 地域ネットワーク～

奈良県吉野郡

黒滝村のまち・ひとづくり

令和4年10月9日

黒滝村長 辻村源四郎

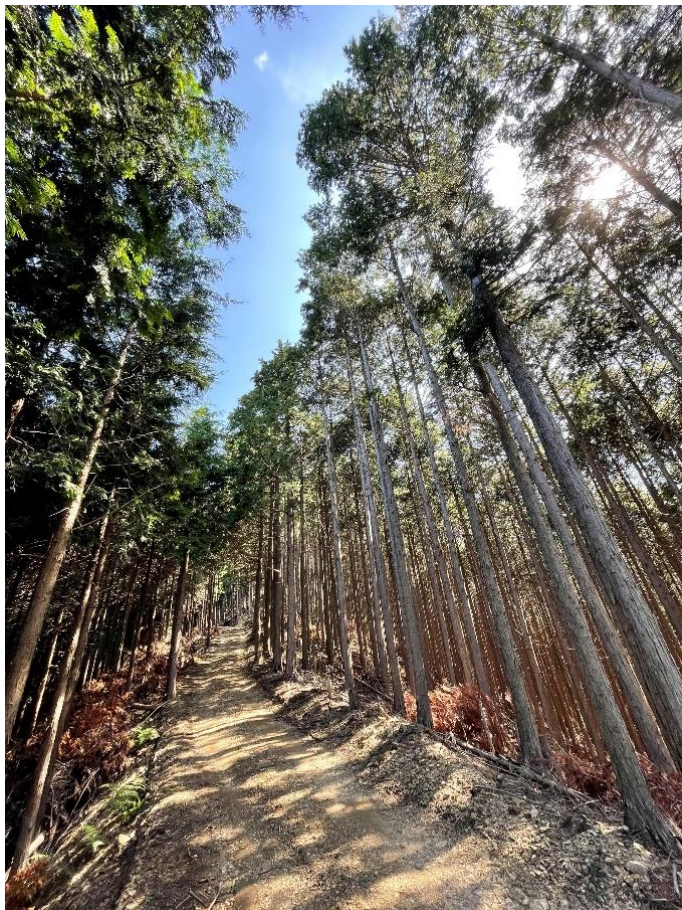


村の特徴 林業の村



面積 47.70 km²

森林面積 44.66 km² (内人工林 約92%)



黒滝村は、奈良県の中央に位置し、人口650人ほどの小さな森林の村です。

村の総面積の97%が森林

吉野林業地域として、昔から長きにわたり人の手による丁寧な育林を行い良質の木材を生産してきました。

森林面積の約92%が人工林

林業従事者の高い技術力で黒滝村の林業が支えられています。森林での作業は、先人から今もなお受け継がれています。



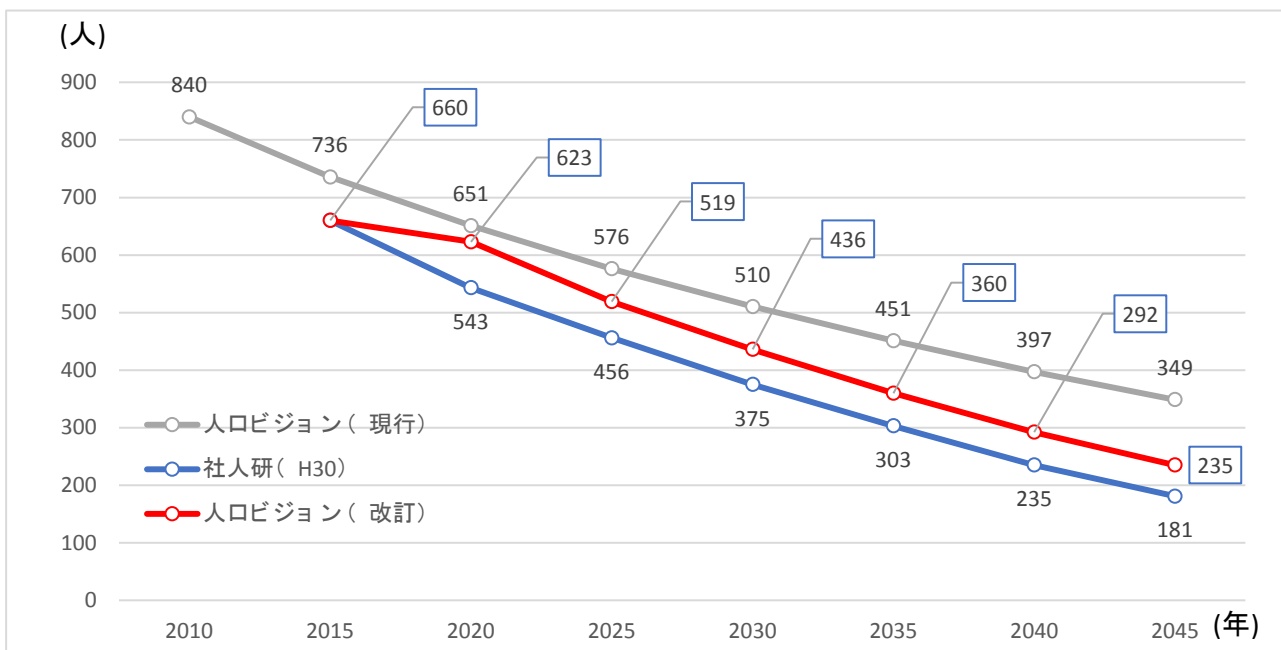
黒滝村の現状と課題

- ・人口の減少（少子高齢化）
- ・空き家の増加
- ・集落の形成（地域コミュニティ）の衰退
- ・木材産業衰退で後継者不足
- ・林業従事者の労働力の低下
- ・安心安全な森林づくり
- ・有害鳥獣による被害
他



「ひと」の移動 人口の減少と若者の増加

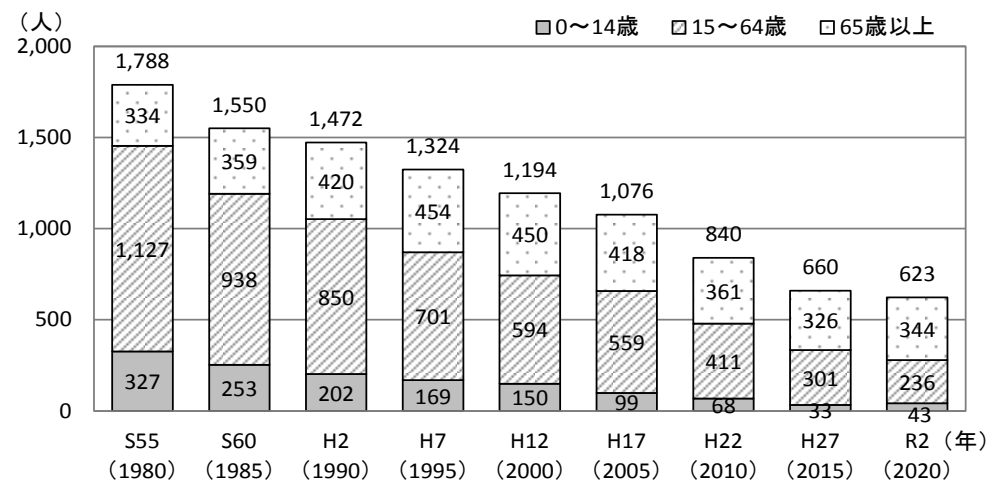
黒滝村の将来人口



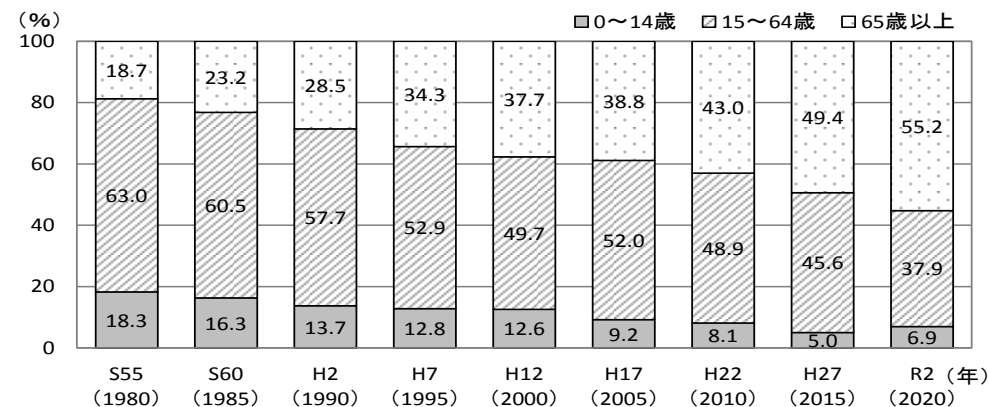
昭和20(1945)年頃から減少の一途をたどり始めた本村の人口は時代の背景による減少率の変化はあるものの、今もなお過疎化傾向にあります。

2015年から2022年の間、若者世代の移住率が増加しています。これは主に林業従事者(地域おこし協力隊等)の雇用が要因となっていると思われます。

年齢区分別人口の推移



年齢区分別人口構成比の推移



資料：総務省「国勢調査」

林業・産業を「ひと」から「ひと」へ受け継ぐ

林業に従事する木材生産者や加工業者の高齢化、後継者の育成が問題となっています。「ひと」がないとなにもできない。そこで村では、受け継ぐ取り組みを行っています。

現在、村では森林整備(6名)と木材産業振興(1名)の地域おこし協力隊が活動しています。先人から受け継がれてきた林業の技術を後世に受け継ぐため、ひとつひとつ丁寧に教わっています。



◆ 地域おこし協力隊事業 (H28~)

林業の担い手育成のため、黒滝村森林組合と連携し、隊員を雇用し日々林業の知識や技術を先輩方から学んでいます。

年度	男性	女性	計
H28	1人	—	1人
H29	2人	1人	3人
H30	2人	1人	3人
R1	2人	2人	4人
R2	2人	2人	4人
R3	4人	3人	7人
R4	4人	3人	7人
累計	8人	5人	13人



地域木材の利用と木材産業の後継者育成

◆ 木材産業担い手育成事業（伝統工芸の後継者育成）

◆ 農山漁村振興交付金 山村活性化対策事業(R1～R3)
伝統工芸「透かし彫り」及び「水組」の技術を活用した、新たな地域産木材利用商品の生産供給体制の整備



木工集団「スギイロ」設立

地域おこし協力隊(木材産業振興1名)と黒滝村森林組合で3名を雇用し、木工集団「スギイロ」を令和3年4月に設立、伝統工芸を継承しつつ、その技法を活用し黒滝村ならではの新たな商品開発に日々取り組んでいます。

他にも、地域の個人事業体と連携し、協力し合い木材産業の活性化を目指します。



「くろたき水組木工」講習会
《山口木工家具建具店》
奈良県の工芸士に認定されている工芸士のもとで、技術講習の実施。
※現在、5名の若者が受講しています。



地元の工務店等に出向き、機械の使い方など聞きながらコミュニケーションを図っています。



「吉野杉 透かし彫り」講習会
《年輪工房》
透かし彫り工芸の技術継承
木材選び、サンドブラスト機械操作及び技術講習の実施。



産業後継者のための住まい 空き家改修

村の中心部でも空き家が増加し明かりが消え、地域がますます暗くなっています。利用可能な空き家を村が借り上げ改修し、仕事と住まいをセットで提供することで移住者の増加を図ります。

地域コミュニティが崩壊しつつある現状、林業の担い手等を集落に受け入れるため、住まいを提供できる体制と住宅の確保が必要です。

◆ 移住定住促進住宅

空き家再生等推進事業(R2) 3棟



◆ 林業従事者住宅

森林環境譲与税(R3) 2棟

森林環境教育 森林を知る

小学生から大学生の現地学習会の実施や、企業の職員研修、森林体験イベントを実施することで、まずは森林のことを知ってもらい、森林の大切さを理解してもらうことが大切です。そして、私たちには知らせる義務があります。



中学生・大学生 森林現地学習会



こどもチェンソー体験イベント



高校生 森林現地学習会



中学生 森林現地学習会



企業職員森林研修

黒滝村まちづくり構想

◆市町村とのまちづくり検討事業補助金交付事業(R2～)

平成30年度より黒滝村では、「森と人が育む魅力ある暮らしづくり」をコンセプトに、まちづくりを進めています。

丹生川沿い地区まちづくり基本構想(案) 概要版

まちづくりのコンセプト

森と人が育む魅力ある暮らしづくり・村(まち)づくり

- 黒滝村は、はるか昔から、森林とともに暮らし、森林とともに発展してきた。現在も林業、銘木、木工、工芸など森での生業が継承発展しながら行われている。
- 丹生川沿いは、多くの人々が往来する国道からの玄関口にあるとともに、教育、医療、福祉、産業、生業、観光などの機能が集積し、黒滝村での暮らしの中心地としての役割がある。
- 地域全体で集客力の向上を図り、訪問客と地域住民とが活動や交流を通じて新たな暮らしや活動を創出し、住民生活の質の向上につなげることで、森と人が育む魅力あるまちづくりをめざす。

基本方針

黒滝村らしい暮らし(黒滝ライフ)の魅力を発信する
(交流人口・関係人口を確保しながら定住につなげる)

森を活かして魅力を高める
(村の最大の資源である「豊かな森・川」を活かした取り組みを進める)

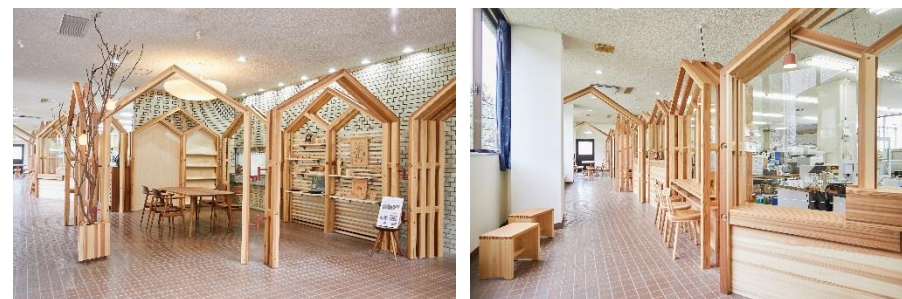
黒滝ライフ実現の「住まい」をつくる
(黒滝村での「良質な暮らし方」を実現・推進する)

丹生川沿いの特徴ある5つの施設の機能や連携強化、魅力付加により、年間を通して、道の駅から黒滝村内に人の流れをつくるとともに、地域住民の暮らしや生活の質の向上をめざす



◆ 森の「イエ」プロジェクト事業(R2)

地域産材を活用して、役場玄関ホールや窓口カウンターを木質化



林業から広がる地域ネットワーク

林業を中心としたまち・ひとづくり、人の成長と共に広がる地域のネットワーク。



・定住促進住宅整備
(地域産材利用)



・商品開発販路開拓

観光

交流

移住定住

癒し

産業



・安心安全な森林づくり
(間伐・路網整備)

住宅

安心

暮らし

林業



・木材産業技術継承

コミュニティ

環境



・森林環境教育
インストラクター養成

教育

福祉

健康

◆ 過疎地域等集落ネットワーク圏
形成支援事業(R4)
地域産材を活用し木工業の担い手
育成、組織強化を進めることにより、
地域集落の維持・活性化に繋げるこ
とを進める。





村では、住民一人一人が関わり合いながら、将来にわたる持続可能な地域を維持する「まち」づくり・「ひと」づくりをおこないます。

ご清聴ありがとうございました



黒滝村